

屋外レジャープール デカパトスとアマラーゴ

今年も7月11日(土)に同時オープンしました

ヤマハが運営する、2つのウォーターパーク。関西の夏のレジャー施設として、ファミリー層を中心に定着してきました。今シーズンも、訪れた人が楽しく、そして安心して過ごせるようなプール運営を心がけていきます。

デカパトスin Rokko Island

2005年にオープンしたデカパトスは、今年、10周年を迎えました。フォトコンテストや記念イベント、フリーパスの販売など、皆様への感謝の気持ちをこめて様々な企画を用意しています。また、施設も、日陰テントの増設や更衣室の改修などを実施し、より快適に過ごしていただけるようになりました。

ホームページ <http://www.dekapatmos.com/>

営業期間
7月11日(土)～9月6日(日)

営業時間
7月18日～8月31日 / 10:00～18:00(受付17:00迄)
7月11日～17日・9月～閉園 / 10:00～17:00(受付16:00迄)



尼崎スポーツの森「アマラーゴ」

西日本最大級の複合スポーツ施設、尼崎スポーツの森のウォーターパーク「アマラーゴ」。この夏も、恒例のサンバカーニバルなど様々な企画で訪れる皆様楽しんでいただけます。尼崎の森も、来年は10周年を迎えることになります。

ホームページ <http://www.a-spo.com/index.html>

営業期間
7月11日(土)～9月13日(日)

営業時間
7月11日～7月17日・9月1日～9月13日 / 9:00～17:30
7月18日～8月31日 / 9:00～18:30



営業所のご案内 プールのことならお気軽に

ヤマハ発動機株式会社 プール事業推進部 TEL 053-594-6512 〒431-0302 静岡県湖西市新居町新居3078

東京営業所

販売課 TEL.03-3454-2434
〒108-0023 東京都港区芝浦3-5-39 田町イーストウィングビル3F

東北販売課 TEL.022-301-7102
〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台ビル3F

中部販売課 TEL.052-218-4366
〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-17-26 ラウンドテラス伏見4F

西日本営業所

販売課 TEL.06-6268-0520
〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町3-4-16 船場オーセンビル4F

九州営業所

販売課 TEL.092-472-7815
〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-13-10 スピリッツ福岡D

www.yamaha-motor.co.jp/



July 2015

Vol.43

www.yamaha-motor.co.jp/



最新 フィットネスクラブのプール

ジェクサー・フィットネス&スパ新川崎

ナチュラルフィットネス

ホリデイスポーツクラブ相模原店

楽しみながらスポーツを

神戸YMCAファミリーウエルネスセンター

地域と共にあゆむ

施設紹介

秀明大学ウォーターポロアリーナ

CONTENTS

- 1 ジェクサー・フィットネス&スパ新川崎
- 3 ホリデイスポーツクラブ相模原
- 5 神戸YMCAファミリーウエルネスセンター
- 7 民間スポーツクラブ最新事例
- 9 秀明大学ウォーターポロアリーナ

ジェクサー・フィットネス&スパ新川崎

株式会社 ジェイアール東日本スポーツ

新しい街づくりが進む新川崎エリア

ジェクサー・フィットネス&スパ新川崎が、2015年の4月、新川崎スクエアにオープンしました。総床面積4062㎡を擁する総合フィットネスクラブです。JR横須賀線・湘南新宿ライン「新川崎」駅とJR南武線「鹿島田」駅の2つの駅の間地点に位置する新川崎スクエアは、ペDESTリアンデッキによって両駅から簡単にアクセスすることができます。

この地域は、東京・品川・新宿・川崎・横浜など主要な駅へ直接アクセスできる利便性を背景に、新しい生活拠点として街づくりが進められ、ファミリー層に人気のエリアとなっています。今後、さらに人口の増加が見込まれ、新川崎スクエアを中心に半径1Km圏内は、数店の総合フィットネスクラブが既に出店している激戦区でもあります。



建設中のタワーマンションとジェクサーのある新川崎スクエア(手前)

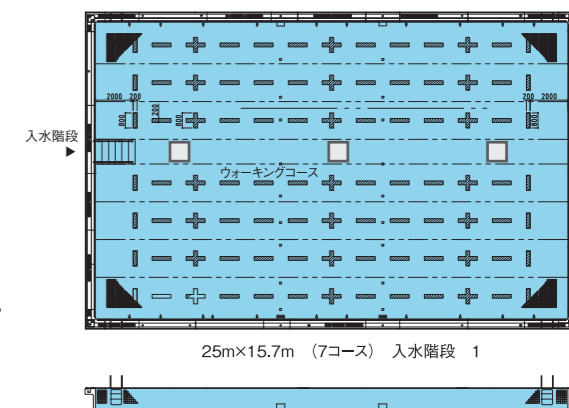


明るさと、落ち着きを感じさせるプール空間

ジェクサー・フィットネス&スパ新川崎のコンセプトのもとに選ばれたプールが、ヤマハフラットプールグランシーナです。プールサイドの大きなガラス窓からの自然光と天井の間接照明が、明るく落ち着いたなかにも解放感を感じられる空間を演出しています。「夜もきれいなんですよ。夜景をみながら泳ぐ、歩く、グランシーナの高級感ともマッチしてとてもリラックスできるプールです。」

アクウォークの機能とデザイン効果

プールの中には、建物を支える柱が3本あります。この柱位置をうまく利用して入水ステップとウォーキングコースが設けられています。床は、ヤマハのアクウォーク仕様です。コースラインは、アクウォークのブロックパターンに合わせて、FRPの一体成型でありながらタイル貼りを思わせるデザインがとてもきれいでした。「最初の計画段階から、このウォーキングコースは考えていました。アクウォークは滑りにくくとても歩きやすいと好評です。キッズスイミングに使うプールフロアも滑りにくくこれは驚きました。とても安心ですね。」



テーマはナチュラルフィットネス

自然な気持ちで楽しむ健康づくり



ホテルのようなフロントカウンター

マネージャーの川上妙子さんにお話を伺いました。

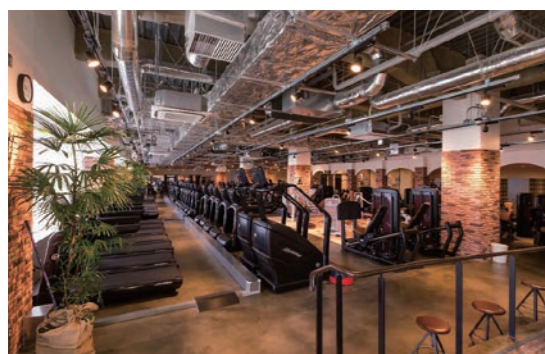
「この施設のコンセプトは、ナチュラルフィットネスです。一般にフィットネスクラブでは、何かハイテンションに体を動かすというのがトレンドの一つになっていますが、ここでは落ち着いた雰囲気のなかで、自然な気持ちで取り組めるエクササイズを提供したいと考えています。これも、継続して運動を続けていただけるひとつの要素だと思います。そのために、インテリアにもこだわりました。利用して下さるお客さまには、是非、ゆったりとくつろいで帰っていただきたいですね。」



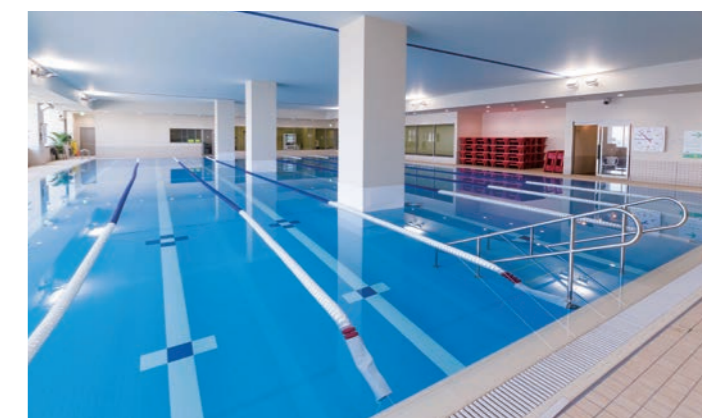
川上マネージャー

10時の開店と同時に、フロントのある4階へ上がるエレベータから次々と女性達が降りてきます。ゆったりとしたロビーは、自然なぬくもりを感じる設えが施され、ブラウンを基調としたインテリアが落ち着いた雰囲気を醸し出しています。4月のオープンから2か月。会員数はすでに、4000人を超えました。明確なコンセプトと、やはり、ジェクサーの特長であるアクセスの良さは確実に集客に繋がっているようです。

「当初、ターゲットは20代～30代の女性を想定していました、今は主婦の方も増えています。会員は、近くのマンションに住むファミリー層が中心になっています。キッズ・スイミングスクールの会員も300人を超えました。」会員のほとんどが、1.0km～1.5km圏内に住まわれているとのことで、この新しい街に住む人達の、新たな健康ライフスタイルに合った施設になっているように感じます。



自然な雰囲気のあるジム



ホリデイスポーツクラブ 相模原店



建物外観



2015年3月にオープンしたホリデイ相模原店。

関東エリアでは、13店舗目となります。横浜線の古淵駅の南、400mに立地し、周辺は国道16号に沿って、イトーヨーカ堂やイオンをはじめとする大型ショッピングセンターやファミリーレストランなど郊外型の生活利便施設が集中するエリアです。

ホリデイ相模原店も「生活圏内の身近な場所で手軽に楽しく運動ができる施設を」という、ホリデイのコンセプトのとおり、広い駐車場・駐輪場を持つ通いやすい郊外型の総合スポーツクラブです。

店長の大越貴哉さんにお話を伺いました。

あらゆる世代に向けた豊富なプログラム

「ホリデイは16歳以上、大人だけのスポーツクラブです。相模原店は特に40代～50代、中高年のお客様が多いです。はじめてフィットネスクラブに通われるという方も多くいらっしゃいます。」

ここでは、はじめての人が楽しんで参加できる様々なプログラムが用意されています。

「遊びに行く感覚で、ついでにフィットネスをする。そのような親しみやすさを意識しています。それぞれの世代や、男性向け、女性のための、などテーマを明確にしたプログラムやキャンペーンで、初めての方でも参加しやすいプログラムを提供しています。」

泳ぐだけじゃないプール

「泳ぐだけじゃない!プールを楽しもう」ということで季節限定のプールプログラムも開催します。ターゲット アブス アクアはスタジオで人気のプログラムのプール版です。

『お腹をへこませる!』がテーマです。寝た姿勢で行なう腹筋は一般の女性だと、1～2回くらいしかできないと思います。プールの中で立った姿勢で腹筋のトレーニングをすると、1回あたりの負荷が小さくなるので、回数を増やして継続することができます。声を出したり、水の抵抗を利用して身体をひねるなど、楽しみながらお腹を意識した運動を行うことで、効果を上げることができます。」

まさに、泳ぐだけじゃない目的を持って開発された、ヤマハのFRPフラットプールとアクウォークがここでも活躍しています。

「アクアエクササイズや水中ウォーキングでは、プールの床は重要です。この床は、グリップが良く、滑りにくいと好評です。」



大越店長

サッカー、野球、バレーボールなど複数のスポーツを経験したスポーツマン。「やはり、スタッフが気持ちよく働けることが大事ですね。それが、お客さんに楽しんでもらえるための基本だと思っています。」

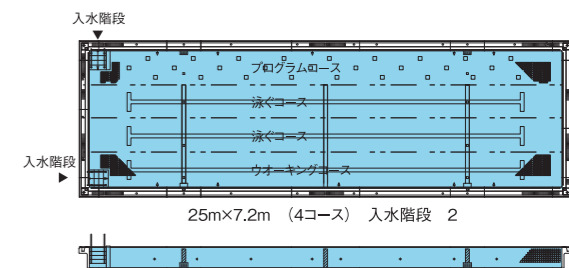


プールのサイズは、25m×7.2m 水深は1.1m 泳ぐコース、ウォーキング専用コース、プログラムコースに分かれています。

「FRPという素材のプールは、タイルプールと比べると柔らかでやさしい感じがします。水深は、1.1mのフラットなので泳げない人も安心できます。入水階段は蹴上が小さく上りやすいとみなさん話されています。」

プール室は、観覧席や窓から見られることがなく、プール外からの視線を気にせずに済みます。中高年や女性、初めてプールへ入る人にとっては安心です。スイムキャップも不要ということも、参加しやすいひとつの要素かもしれません。

「子供のスクールがないからこそできることもあります。今後は、プールを使った新しい運動や体操のプログラムがはじまります。また、スイミングレッスンのプログラムも取り入れていきたいですね。是非、はじめて泳ぐ楽しさを体感していただけたらと思います。」



スタジオ



受付・ロビー



ジム

神戸YMCAファミリーウエルネスセンター

公益財団法人 神戸YMCA



130年近い歴史のある神戸YMCA。キリスト教を基盤として様々な活動で社会に貢献してきました。2014年の7月、築後40年が経過していた神戸YMCA三宮会館の建て替えにともない、その場所で運営されていた「ウエルネスセンター三宮」が移転し、脇浜町に「ファミリーウエルネスセンター」として生まれ変わり、同年9月にオープンしました。所長の小寺隆志さんにお話を伺いました。

「2016年には、新会館が完成する予定ですが、ウエルネスセンターを同じ場所となると2年ほど活動できなくなります。現会員が通えるエリアということで、この場所での新築が決まりました。YMCAの理念である、文化や教育を通じた社会貢献を發展させ、健康や福祉の増進とともにコミュニティーの育成を目指しています。」



神戸YMCAファミリーウエルネスセンター
所長 小寺 隆志さん

多文化と多世代の交流

地域と共にあゆむファミリーウエルネスセンター

ウエルネス
(健康教育)

児童発達支援

高齢者福祉

ここでは、3つの事業が運営されています。ウエルネス事業、2歳から4歳児の児童発達支援、そして高齢者福祉事業です。

「今の、そしてこれからの社会や地域から求められる動きをさせていただき、共に歩みたいと考えています。この「ファミリーウエルネス」という言葉には、会員の家族や、コミュニティーの仲間など支え合う、人と人のよい関係づくりを支援したいという想いがあります。そしてこのファミリーウエルネスを進める柱がこの3つの事業です。」

継続して運動を行うだけでなく、人と人のつながりを意識した運営はYMCAならではのいえるかもしれませんが、フィジカルや、精神的健康だけではなく、個人の人間関係などが関わる社会的健康が満たされる、というソーシャルヘルスの考え方がここにはあります。

「この地域には、いくつかのコミュニティがあります。近隣の商店街には、昔からこの地域に住んでいらっしゃる方がいらっしゃいます。海沿いにあるHAT神戸には、阪神淡路大震災後に他の地域や国(特に中国)から移って来られ生活されている方が過ぎしています。近隣の企業には、欧米や中東、アフリカからやってきて過ぎしておられる方もいます。まさに、多世代、多文化が混じり合う地域です。この施設は、まさにこの地域の縮図のようになっています。だからこそ、世代や文化の違いを認め合いながら、ひとり一人が繋がっていく喜びを地域の方と共にする。そんな役割が担えたらと思っています。」

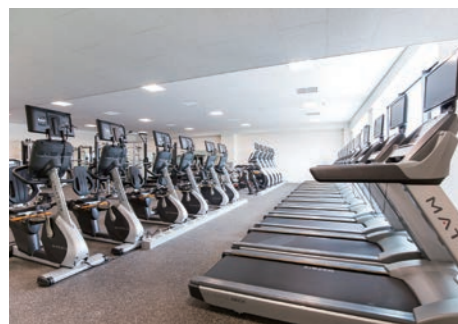


YMCAデイサービス ふっとぶりと(1階)



キッズプログラム プール(2階)

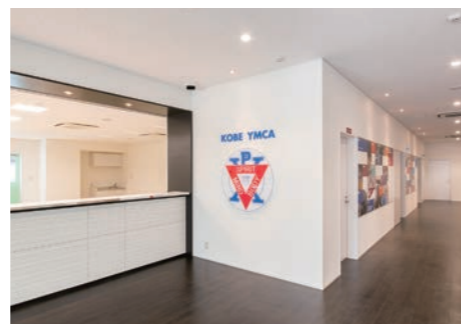
施設は5階建て、床面積は約2700㎡。
1階には、デイサービスルームやプレイルーム相談室などがロビーを介して配置されています。
子供やお母さん、お年寄。日々人が集まる地域とのつながりを感じる場所でした。



トレーニングジム(5階)



スタジオ(4階)



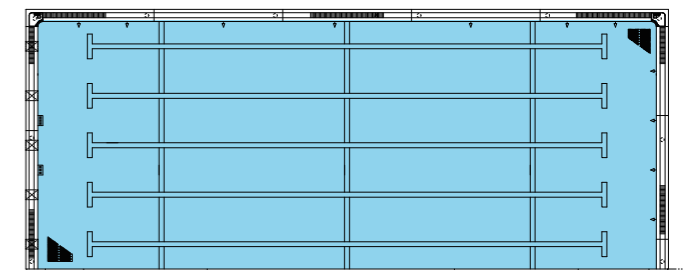
エントランス ロビー

誰もが安心して使えるプール

さまざまな年代の人が使うプール。大きな震災を経験した神戸ですから安全はより強く意識されています。



2階3階の吹き抜けがプール室になっています。3階の観覧席にはキッズルームと授乳室、2階には子供の更衣ロッカー室があります。



25m×10m (5コース)

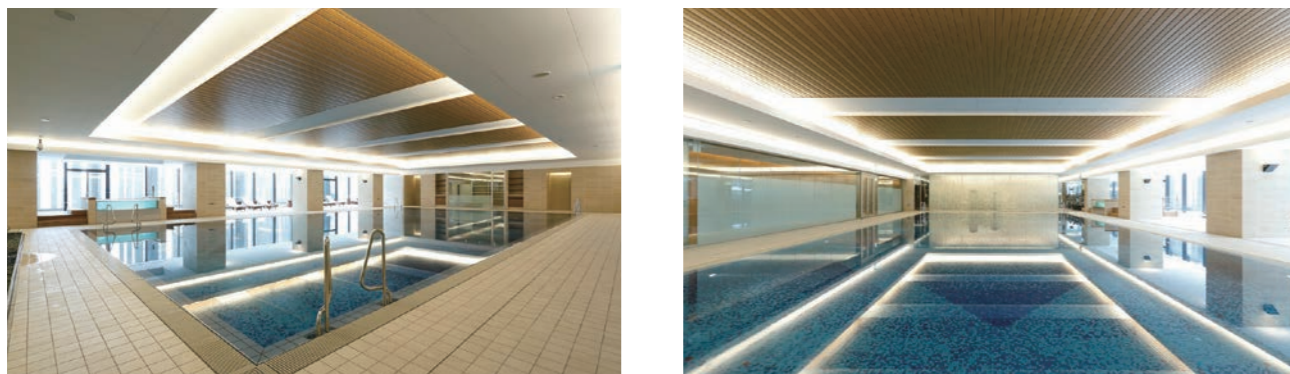
プールは25m×10mの5コース、水深は1.0m～1.1m 床はヤマハのアクウォークが採用されています。

「FRPプールのメリットで一番感じるのは、メンテナンスのしやすさですね。清掃もかんたんです。そして安全性。特にスリップレス加工がされた床は滑りにくく、女性や高齢者の方が、ウォーキングで急に足を滑らせて顔が水につかってしまうような心配も少なくなります。スタッフからも、プールフロアの移動など、プログラムの準備が楽になったと好評です。」

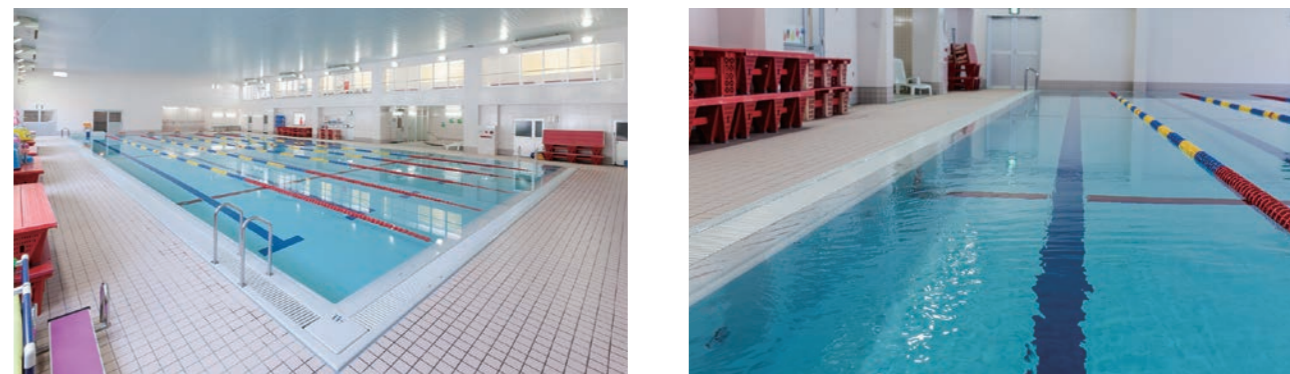
プールはまさに世代を超えてだれもが利用できるスポーツの場といえます。水泳だけでなく、ウォーキング、アクアビクス、リハビリなど様々な目的で使われます。ヤマハのFRPプールとアクウォークは、この「ファミリーウエルネス」に、安全と安心で貢献しています。

民間スポーツクラブ 最新事例

インターコンチネンタル 大阪 (大阪府大阪市)



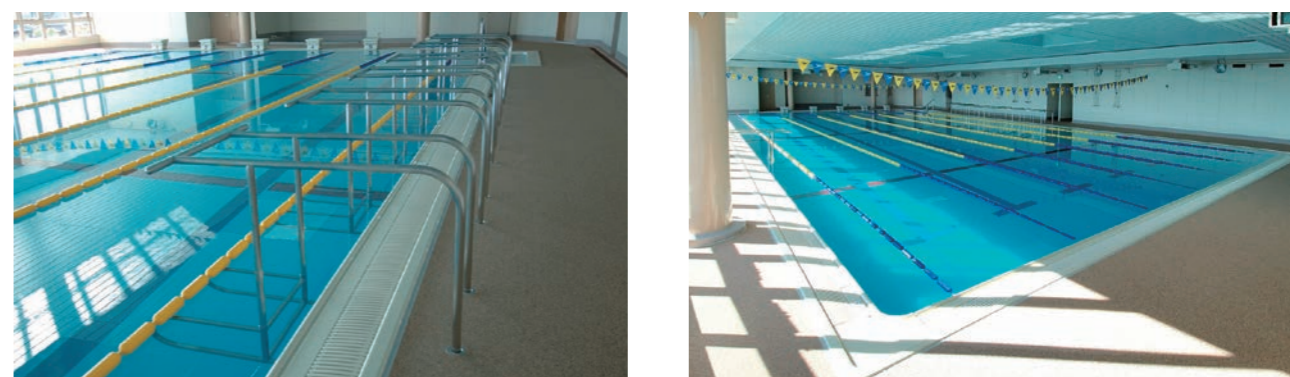
ダッシュスイミングスクール新潟 (新潟県新潟市)



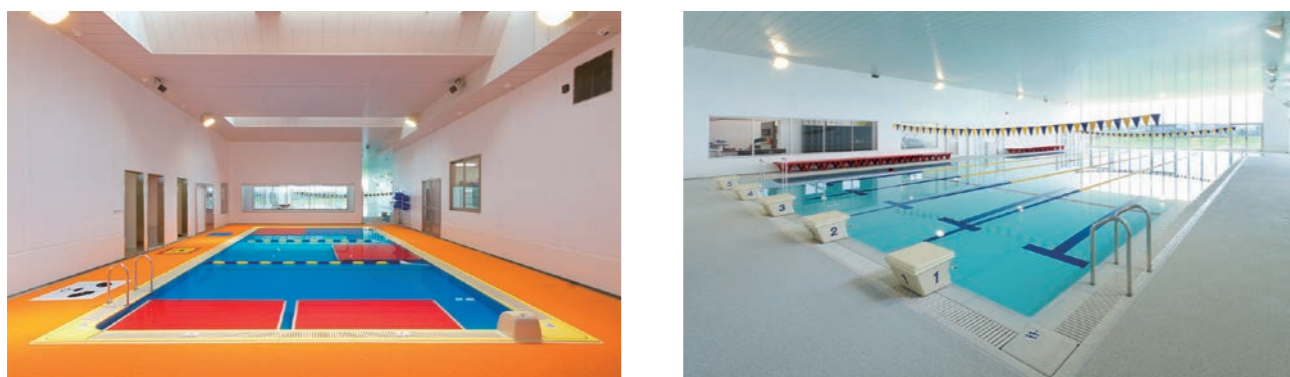
グランスポールあすと長町 (宮城県仙台市)



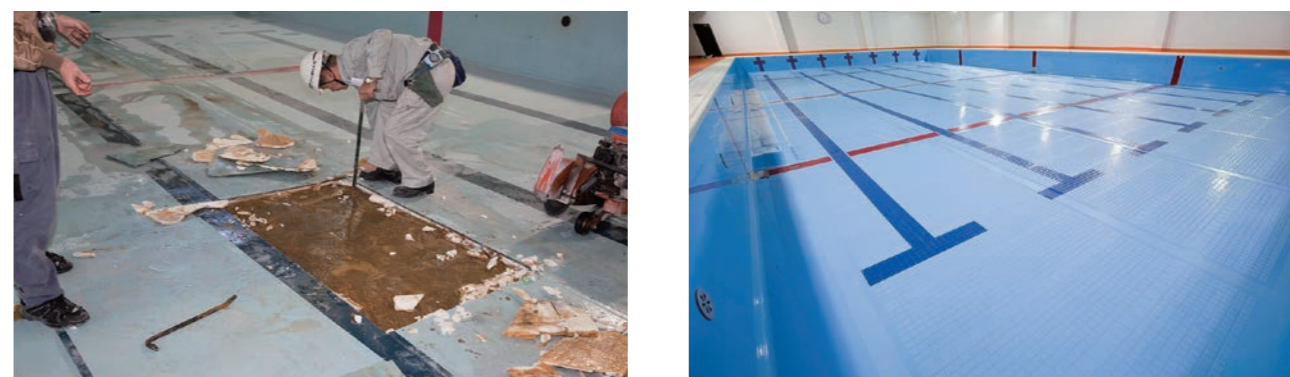
ジーラックススイミングクラブ (福島県郡山市)



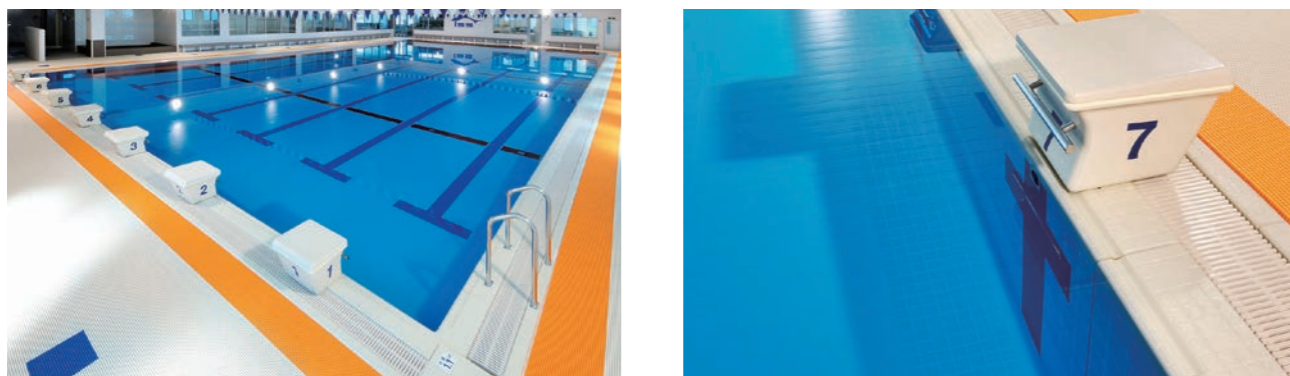
KSG八代 (熊本県八代市)



協栄スイミングクラブ町田 (東京都町田市)



イトマンスイミングスクール (愛知県名古屋市)



ルネサンス八日市場 (千葉県匝瑳市)



秀明大学 ウォーターポロアリーナ

千葉県八千代市

秀明大学は、1988年千葉県八千代市に八千代国際大学として設立されました。

「常に真理を追究し、友情を培い、広く社会に貢献する人間形成を目的とする」という建学の精神と「知・技・心の調和のとれた人材を育成する」という教育目標に基づき、実学重視のカリキュラム、イギリス留学、学生寮における人間形成、資格取得をめざす夜間特別ゼミナールなど、特色ある教育プログラムが実践されています。



国内初 女子水球公認プール



キャットウォークからの全景。公認水球プール(FRP製) プールサイズ 30m×25m 水深2m(女子水球フィールド 25m×20m)

目指せ!2020年 東京オリンピック・パラリンピック

国内初の(公財)日本水泳連盟公認女子水球公認プールが完成

陸上競技のトラックや野球場など広大な敷地に本格的なスポーツ教育施設が広がるキャンパス。その一角に2015年3月、国内では初めての公認女子水球用プールが完成しました。トレーニング室や研修室を備えた3階建ての施設は、日本女子代表チームが強化合宿を行う練習拠点としても利用されます。

女子水球の国内競技人口は約1500人と少なく、高校総体でも競技種目になっていません。

国内ではなじみの薄い女子水球。選手たちに専用練習場はなく、競技用プールを借りて練習するため、競泳陣の練習が優先となり十分な練習ができませんでした。

川島学長が、この状況を憂慮し、なんとか女子水球を普及させたいと考え、あえて女子専用の水球プールが整備されました。

現在女子水球部員は8人。日本代表やユース代表に名を連ねる国内トップ級の選手たちが集まっています。

女子水球部を率いる加藤英雄監督は、水球女子日本代表監督でもあり、この最高の環境で一貫した強化が行われ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックへ向けて期待が高まっています。



競技会に対応できる設備と、立体トラスが創り出すダイナミックなプール空間。



観覧席



3階フロア



競技中の波を吸収するオーバーフロー。